

専門学校(高校)→専門職大学→専門職大学院で職業上の能力を身に付ける国、フィンランド
—福田誠治著「フィンランドはもう『学力』の先を行っている」(亜紀書房)を読んで考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

気候の変動が非常に激しいですが、皆さんはゴールデンウィークを元気にお過ごしになられたでしょうか。私もたっぷり休みを取らせていただきまして、本当によいゴールデンウィークでした。休みを取ったといっても、私の場合は開倫塾という学習塾の経営者ですので、この学習塾をこれからどのようにするのか、これからどこで開倫塾をやったらよいのか、その候補地をこのゴールデンウィーク中にたくさん回りました。自動車を1日に約2～300kmも運転してあちこちの市や町を訪問させていただきました。北関東、つまり栃木県・群馬県・茨城県には非常に素晴らしい市や町があることがよくわかり、私にとってすごく楽しいゴールデンウィークでした。

2. さて、今日はフィンランドのお話を少しさせていただきます。なぜフィンランドかといいますと、教育を語るときに今一番注目されている国の一つがフィンランドだからです。OECD(経済協力開発機構)が2000年以来3年に1度行っているPISAという15歳時の学力の国際調査の結果を見ますと、フィンランドはいつも1番か2番で非常に高い学力を示しています。そのため、日本のマスコミや教育に関心のある人々もフィンランドの教育がどのようになっているのかに非常に高い関心を持っています。PISA調査の第1回の2000年は日本が世界No.1でしたが、第2回の2003年にはフィンランドが世界で一番になりましたので、私も2004年から何回かに分けてフィンランドを訪問し、フィンランドの教育がどのようになっているのかを勉強させていただきました。

3. 2004年3月には、フィンランドの首都ヘルシンキにあるヘルシンキ大学で「なぜフィンランドが世界一の学力になったのか」という国際会議がフィンランド文部省の主催でありました。その会議で知り合いになった福田誠治先生がフィンランドの教育について、亜紀書房から「フィンランドはもう『学力』の先を行っている」という本を新しく出しましたので、その本を読ませていただきました。その報告を少しいたします。福田誠治先生は、現在、都留文科大学の副学長をお務めです。今度出された本の中身は、「フィンランドはもう学力の先を行っている。それは人生につながるコンピテンシーベースの教育で、フィンランドは今までの学力の概念ではなくて、もっともっと先のほうに行っていて、人生につながるコンピテンシーベース・人生にとって役に立つ能力という観点からの教育を展開している」ということです。そこで、少し難しいかもしれませんが、フィンラン

ドの教育を日本にどのように応用できるかを一緒に考えてみたいと思います。

4. 学校は何のためにあるのか学校教育の目的や内容ということについて、いろいろな考えがあります。フィンランドでは、小学校・中学校は基礎教育をするところだと捉えられ、高等学校は職業上の資格を取得する場だと言いつけられています。フィンランドでは職業の資格は全部で 358 種類あります。基礎的な職業については、高等学校に 120 の学習課程があり、それを通じて高等学校のうちに職業の資格をできるかぎり取得しようというのがフィンランドの考えです。大学に進学する人は、もちろん大学に行くための教育を受けます。基本的には、半分ぐらいの方が総合大学に進学し、半分ぐらいの方が職業に就きます。その職業に就く人にとっては、高等学校は職業上の資格を取得する場であると考えられています。職業に就いた人・職業の教育を受けた人には、ある一定年限勉強して難しい段階の職業の資格が取れた段階で、今度は専門職大学(ポリテクニクといいます)に進学をする道が開かれています。
5. このように、日本でいう一般的な意味での大学に進学する人は、日本と同じような普通科の高等学校に行くのですが、仕事に就きたい人は、まずは基礎職業の教育を受ける高等学校に行きます。この高等学校のことをフィンランドでは専門学校といいます。専門学校のアートにもっともっと難しい勉強をしたい人は、専門職大学(ポリテクニク)に進学します。フィンランドでは、高校を卒業した 8 割～9 割以上の人に普通の大学か職業のための専門職大学のどちらかの大学を卒業させる、それを国の高等教育政策にしているようです。大学や専門職学校を卒業し、さらにもう少し勉強したい人には、大学院に行ってもっともっと難しい勉強をしてもらおうという取り組みも盛んになされています。
6. 資格がないと就職できないというのがフィンランドです。高等学校が終わったあとに仕事をした人は、とにかく一定の資格を取って仕事に就く。もちろん大学が終わったあとも仕事をするのに大学卒業以外の資格が必要な場合には、仕事の面での資格を取るために専門学校という名前の高校に行く人も多いようです。つまり、フィンランドは、最初は基礎的な職業の資格を取るための専門学校に行き、そのあとに少し難しい専門職大学という上級の学校に行き、さらにもっともっと難しい専門職大学院という専門職の資格を取る学校に行く。3 つの段階を経ることでお給料もだんだん上がり、ポジション(地位)も上がっていくという非常にわかりやすい国だと思います。
7. 日本も、このようなほうがよいかなと思います。高等学校が終わったあとになかなか仕事に就けない・大学が終わっても仕事に就けないなど、若者の失業が日本を含めた先進諸国での世界的な問題となっています。その失業を無くすためにも、資格制度を設けて、一つの仕事に就くにはこれだけのスキルが必要だということで、それを専門学校という高等学校のうちから少しずつ蓄えて社会に出るようにし、また、もっと必要な場合には専門職大学や専門職大学院に行ってもう少し勉強するということがよいのではないかと思います。

8. フィンランドは今は非常に豊かな国ですが、1990年代に一度大変な経済危機がありまして、国家存亡の危機に陥り、非常に貧しい国になってしまいました。そのため、フィンランドの教育の仕組みは、「我が国は人口も少なく貧しいので、仕事をしない人を出すわけにはいかない。若者の積極的な社会参加を支援して、若者に社会的な力を与え生活状態を改善することが教育の目標の一つである。一人ひとりの自律を促すために教育費を使ったほうが、自律できない若者を福祉で支えるより安上がりであって、本人にとっても社会にとっても有意義である」という現実的な考えに基づいています。このフィンランドの考え方は、もしかしたら日本の失業対策の1つとして参考になるのではないかと思います。

9. 今日は、私がフィンランドに行ったときに知り合った、都留文科大学副学長の福田誠治先生という非常に立派な先生が、フィンランドはどのような教育の仕組みを持って世界で一番の学力の国になったのか、特に職業教育について述べられた「フィンランドはもう『学力』の先を行っている」という本を出されましたので、その紹介をさせていただきました。亜紀書房という出版社から出ていますので、ぜひ皆様も手に取ってご覧になっていただければと思います。福田先生は、教育によって人生に繋がる能力の育成が大事だという考えで、私も大賛成です。

皆様はどのようにお考えでしょうか。

— 2013年9月6日(金)加筆・訂正、林明夫 —